

痛みを分かち合い

支え合う心

ここ最近、かなり頻繁に血液製剤をうち、出血しない血液状態になっているつもりではあるが、やはり血友病は血友病。



大橋雄二

政治家の国民のためと言いつつ、志や理念だけを空念仏の如く、声高らかに発する本末転倒の愚かな言行動への戒めとして、マザーテレサの言葉を思い出す。

「多くの民の幸せを訴える前に、隣人への行動を取る愛の大切さ。そこに倒れ立ち上がることが出来ない人が一人いれば、その人にかけてより声をかけ、力を貸してあげること」この精神を忘れているものたちが、行政や大きな組織に多く存在している。



カバー画 葉祥明

2011年7月25日発売

四六判上製 230頁  
1,575円(税込み)

目次(抜粋)

- 第一章：3・11 東京×福島…福島から届いたメール 他
- 第二章：障がい者との共生…パンに込められたメッセージ、他、

- 第三章：苦悩する福島…県外で仕事を見つけないが…、他
- 第四章：風評被害と実害の間で…食べて支えるということ、他
- 第五章：笑う門には福島来たる…新しい生き方は福島から生まれる、他

著者略歴 渥美 京子(あつみ きょうこ)

1958年、静岡県生まれ。  
大学卒業後、電機メーカー勤務を経て、  
法律系の専門出版社に就職。  
1992年からフリーランスに。



著書に『パンを耕した男ー蘇れ穀物の精』  
(コモンズ刊、2003年)

共著に『脱原発社会を創る30人の提言』(コモンズ刊、2011年)などがある。

著者の言葉

放射能を背負って生きる。悲しい現実だが、放射能汚染の時代を生きることになってしまった。生きるとは、家族、隣人、社会に生きる人たちと共に生きる(共生する)ことにほかならない。いのちが大事ということは、自分のいのちだけではなく、他者のいのちも大事にすることによって成り立つ。

日本にある全ての原発を一刻も早く止めるために声を上げ、行動を起こすことは大切である。「放射能からいかに身を守るか」も考えなくてはならない。それと同時に、福島原発は「どう生きるのか」「いかに共生するのか」という根元的な問題をこの国に住む全ての人間に突きつけている。

貴店名・帖合	発行・燦葉出版社 FAX 03(3241)2269 東京都中央区日本橋本町4-2-11 TEL 03(3241)0049	注文数
	<b>笑う門には福島来たる =大橋雄二 いのち 共生 放射能=</b> 定価1,575円(本体1500円+税)	
	ISBN978-4-87925-102-2 C0095 ¥1500E	